2014年 夏号

僧伽

第86号
僧伽編集委員会
〒921-8031
金沢市野町２丁目32-4
徳法寺内
TEL (076) 241－5219
題字　本多　千翠

外道の所有の三昧は、
みな見愛我慢の心を離れずれず、
世間の名利恭敬に貪着するが
ゆえなり

『教行信証』化身土巻（末）

『教行信証』
親鸞聖人の主著。
教巻・行巻・信巻・
証巻・真仏土巻・
化身土巻（本・末）
からなる。

ストレスと依存症

徳法寺　杉谷　淨

若い頃にアメリカのラスベガスに行ったことがあります。上の写真はその時のものです。二十歳そこそこで行った中米旅行のついでに、ロスから素泊まりのバスツアーに参加しての数時間だけの滞在でした。ゲームのルールも分からないまま、ディーラーに教えてもらいながら小銭でちまちま遊んできたという記憶があります。今のラスベガスはエンターテイメントの町になったようですが、当時は博打と酒と女の町という雰囲気で、私のような貧乏旅行者は、好奇心の塊になって、町の隅っこの方をちょろちょろとしていました。

賭け事の目的の一つがお金であることは間違いありません。お金が無いために、病院や学校に行けない子どもたちは世界中に溢れています。職を求めて故郷を捨て都会に来たものの、思うような仕事が得られない人たちがつくるスラム街も、途上国では珍しいものではありません。もっとお金さえあれば、と思っている人は多いはずです。

ただ、賭け事の目的はお金だけではありません。それは思い通りになった時の興奮と、負けるかもしれないというスリルです。この興奮とスリルがストレスを解消してくれるのでしょう。自分を苦しめる現実から眼をそらすことが出来るのです。しかし、これがギャンブルに対する依存症を生みます。今問題になっているネット依存症は、この興奮とスリルだけに特化したギャンブルともいえます。もちろん運営しているところは儲かるのですが。

仏教とは、現実と向き合いながらも、過度のストレスから開放してくれる教えです。楽に生きることの極みが「極楽」なのですから。たまに現実を忘れることも気分転換になりますが、ちゃんと現実に帰ってこなければ、現実そのものを失いかねません。もっと上手に生きるすべを仏教から学んでみてはいかがですか。

奈良井 伸子

「語り部」というなりわい

「民話」に出会ったのはいつだったかな。子どもの頃「まんが日本むかしばなし」が毎週楽しみだった。それから布団の中で毎夜聞いた父母のおはなし。「エルマーの冒険」「長くつ下のピッピ」。世界中のおはなしに胸を躍らせた。

大人になって出産した頃には、すでに「おはなし会」というものがあった。図書館や学校で、おばちゃんたちがお話を聞かせてくれる会。すぐに私がその世界に魅了されていったのは、やっぱり子ども時代の記憶が宝物だったからかな。小学校や図書館でこどもたちに絵本や紙芝居、語り、わらべうた、おはなしを語り始めた。

囲炉裏で民話を語るという習慣がすでにない時代に育った私たちは、残念ながら昔のこどもたちのように口伝で民話を覚えることはかなわない。けれど、先人が記録に残してくれた言葉を「音」にもどして語り伝えていく。そうすれば今の子どもたちはわたしたちみたいに活字でじゃなく、耳で民話を覚える世代になる。そうすることで、民話は再び「口承文芸」としてよみがえるんじゃないかな。

魂に言葉が届いた瞬間、人はとても美しい表情をする。空気がシン、と音を立てて鎮まり、瞳が透明に深度を増す。時々そんな美しい瞬間に出会う。

民話には、祖先たちが後世に語り継ぎたい真実が語られてきた。その深い思いが、今も私たちの魂を揺さぶっている。

そして住む土地の物語は、子どもたちに誇りと自信と勇気を与える。「この土地に伝わるおはなしだよ」と言った瞬間、聞き手の瞳がぐんと輝く。子どもたちはそれを「本当の物語」だと信じる。だって、私自身が「真実」を語っているからね。本当だと思わない物語は語らないよ。

ここ石川県の民話は、ほとんど「人ではないもの」と人間との交流の物語だったりする。天狗、龍、河童、狐、狸、かぶそ…。民話の中にはそんな「異なるもの」たちが確かに息づいている。

「人ではないもの」たちの存在を感じることは、実はとても大切なことだ。人は地球の支配者だろうか？人が一番賢いのだろうか？民話には人の驕りを笑い飛ばす叡智とたくましさがある。

それから、東日本大震災。あの日のことは忘れない。建物を飛び出すと町中の人たちが空を見上げていた。空には電線がゆらりと揺れ、まるでゴジラか何かの映画の1シーンのようだった。ふわふわとした非現実感のなか、世界は反転したまま戻らない。悪夢から目の覚めないように。私は子どもと石川へと逃れた。でも悪夢は覚めない。

そんな中で正気を保つ手段は「語る」ことだった。今何が起きているのか語ること。未来への想いをかたること。過去を振り返ること。

加賀藩から相馬藩へ移民した歴史を描いた「相馬移民奇譚」。この朗読劇を見て「子どものころから聞いてきた話そのものだ」と喜んでくれた人がいた。ミヒャエルエンデの「モモ」に描かれる世界は今の日本そのものだと思った。

この夏上演する朗読劇「空の村号」は飯舘村全村避難を取材した現代の民話だ。震災後避難移住した私達と支援者による舞台。それぞれの、自分自身の物語。

これからも私は語り続ける。物語が語ってほしいと呼び掛ける限り。

奈良井伸子
一九六九年　金沢市生まれ。小学校時代より演劇に親しみ、出産を期に語りの世界と出会い、川手鷹彦に師事。東京で震災に遭い帰郷。現在、石川県の民話を中心に、今伝えるべき物語を語り続ける。ミュージシャンや演劇人、野外活動などとのコラボにも意欲的に取り組む。出演作「相馬移民奇譚」「モモ」「虹の戦士」など。能美民話の会会員。わらべうたとえんげきの広場はちみつ主宰。

和讃（わさん）に学ぶ　第四十四回

徳法寺　杉谷　淨

恵思禅師（えしぜんじ）

初期仏教は永遠の魂とされる我（アートマン）を認めませんでしたが（無我）、インドでは一般に輪廻転生が信じられていたために、徐々に仏教も方便として輪廻を受け入れるようになります。それが日本に仏教が伝わって来た頃には、仏教が輪廻を説く教えとして理解されるようになります。親鸞聖人が聖徳太子を讃えて作られた『皇太子聖徳奉讃』にはこれを覗わせる次のような和讃があります。

仏法興隆のためにとて
衡州衡山にましまして
数十の身をへたまいて
如来の遺教弘興しき
有情を濟度せむために
恵思禅師とおわします
衡山般若台にては
南岳大師とまうしけり

ここには「聖徳太子は仏教を広めるために、過去に何十回も生まれ変わっているのですが、中国においては恵思禅師（南岳大師）として生きていたことがある」と謳われています。聖徳太子の前世が恵思禅師であったという説は親鸞聖人が生まれる以前、奈良時代には既に広がっていたようです。これは聖徳太子自身が語ったのではなく、唐招提寺で有名な鑑真和上が日本へ招聘された時「かつて南岳恵思禅師が亡くなった後、日本の王子として生まれ変わり、仏教を広め衆生を救ったと聞きました」と答えたとされる逸話に因るようです。鑑真和上が何度も遭難しながらも日本に渡ろうとしたのは、尊敬する恵思禅師を慕ってのことであったといいます。

この恵思禅師とは六世紀に活躍した中国の僧で、日本の天台宗のルーツである中国天台宗の第二祖とされる人です。ちなみに開祖は『正信偈』でもおなじみの竜樹です。実際には三祖とされる智顗（ちぎ）が天台宗を興しているのですが、自らを祖としないのは、必ず師をたてるという仏教の伝統です。インド人の竜樹はともかく、恵思は智顗にとって直接の師であったようです。

伝説によりますと禅によって悟りを得た恵思禅師は各地で布教に励みますが、当時の仏教界から激しい迫害を受け、何度も毒殺されそうになったといいます。何故そこまで嫌われたのかははっきりしませんが、それまでの仏教理解とはかなり違った教えであったのでしょう。各地を転々とするうちに弟子も増え、光州の大蘇山で智顗などの弟子たちに『法華経』と『大品般若経』を中心とした教えを説いていたようですが、迫害が治まることはありませんでした。晩年には智顗と別れ、門弟四十人余りと共に南岳衡山に入り、最後の十年近くをここで過ごしています。その教えは、初期には厳しく戒律を守り禅定によって仏と衆生が一つになる「一心」を得ることを強調していました。人間の本性は如来と等しい清浄なものであるにもかかわらず、煩悩によって曇ってしまっているので、座禅によって自身の本性である「如来蔵」を観ずることを勧めたのです。しかし晩年になると、その教えは『法華経』に重点が移ります。

親鸞聖人が仏教を学んだ比叡山は『法華経』を中心とする天台宗です。念仏系の仏教では知名度の低い恵思禅師ですが、親鸞聖人にとっては中国を代表する偉大な一人であったのでしょう。その人が尊敬する聖徳太子と繋がっていると考えることはとても魅力的なことであったのだと思います。親鸞聖人自身は自分の前世や来世に対してほとんど興味を持っていなかったようです。ただ、自分の尊敬する先師方が、自分たち凡夫を救済するために繰り返しこの地に生まれて来て下さっているという感謝の念は抱いていらっしゃったのかもしれません。

真宗豆知識

もう一つの正信偈

寺の報恩講にお参りされたことがある方なら、お勤めの中で、『正信偈』に大変よく似た偈文が唱えられるのに気が付かれたことはないだろうか。これは、通称『文類偈』といわれる偈文で、報恩講ではお日中の登高座の後の添え勤めで用いられる偈文である。通常大変早口であげられることが多いので、聞き取りにくいかもしれない。

しかしよく聞いていると、「西方不可思議尊」という一句で始まるこの偈文には、ところどころ耳慣れた『正信偈』の文言が出てくる。また節も『正信偈』に大変似ている。

皆さんが慣れ親しんでいる『正信偈』は、親鸞聖人の主著『教行信証』（正式には『顕浄土真実教行証文類』）の中に収められている。実は親鸞聖人には、これとは別に『浄土文類聚鈔』という書物がある。この中に収められているのが、今述べた『文類偈』である。

（しかも『正信偈』の正式名称が、『正信念仏偈』で、『文類偈』の正式名称が『念仏正信偈』だから、ややこしいことこの上ないのである。ここでは判りやすいように『正信偈』、『文類偈』と記すことにする。）

『教行信証』と『浄土文類聚鈔』は、形式的にも、内容的にも重なる部分があるが、後者の方が圧倒的に短い。そこで『教行信証』を広本、『浄土文類聚鈔』を、その内容を要約したという意味で、略本と呼ぶことがある。

さて、両者が著わされた順番については、諸説あり、いまだ定かではない。それは、『浄土文類聚鈔』には聖人直筆のものが現存していないことによる。

しかしどちらが先かという問題は、研究者の間では少なからず重要な問題である。つまり『浄土文類聚鈔』の聖経としての重要性にかかわってくるからである。というのは、略本が先ならば、これは明らかに広本の草稿として著わされたものであり、不完全なものということになる。また広本が先ならば、略本は『教行信証』の教えの重要な部分を煮詰めたものということになり、資料的価値も上がるということになる。つまり略前広後説か、広前略後説かで、教説の細かい部分の解釈が微妙に変わってくるのである。

浄土真宗の最大の行事である報恩講においては、お逮夜で『正信偈』、お日中で『文類偈』の順番で勤められる。これは報恩講の式次第を定めた人々が広前略後説をとっていたからであろう。

ただ両者を見比べると、『浄土文類聚鈔』は荒削りな印象が強く、『教行信証』の方が文章も整っており、より完成度が高いように見受けられる。そういう意味では、『浄土文類聚鈔』は『教行信証』の草稿として著わされたものであるとする略前広後説が現在では一般的であるようだ。

（彰）

徳法寺のホームページができました

今更ながら、ホームページを作りました。「僧伽」のバックナンバーや報恩講、春秋彼岸の案内、お講の案内、学習会のレジュメ、交流広場などを載せています。アドレスは http://tokuhou-ji.com/ です。是非覗いてみてください。

杉谷浄のラジオ案内

八月五日(火)
九月二日(火)
十月七日(火)
十一月四日(火)

FM-N1(七十六・三MHz)で午後一時半から一時間放送します。番組名は「生活一番シャトル便　住職のよもやま話」です。再放送は放送日の週の土曜朝六時からです。インターネットでも聞けます。

本の紹介

『下町ロケット』

池井戸　潤

小学館

一七〇〇円（税別）

池井戸潤原作のドラマが、テレビで矢継ぎ早に放映されている。『半沢直樹』『ルーズベルトゲーム』『花咲舞が黙っていない』・・・・どれも高視聴率を取っているという。何を隠そう私もそのファンの一人である。

『下町ロケット』は、池井戸の初期の代表作であり、第一四五回直木賞受賞作でもある。

主人公の佃航平（つくだこうへい）は、かつてロケット開発の技術者であったが、打ち上げ失敗の責任を取らされ、その任を解かれた。彼は、父の残した佃製作所を引き継いで社長となるが、宇宙への夢を捨てきれない。そんな中、わずか資本金三千万円、従業員二〇〇名の佃製作所は、最高水準のロケットの部品（バルブシステム）の開発に成功する・・・・・。

読み進めるにつれて、主人公の顔が唐沢寿明や、堺雅人にかさなってくるから不思議だ。それほどまでに池井戸が描く主人公のイメージは一定している。権力に媚びへつらうことを嫌う、昔気質の実直な頑固者。しかし人情に厚く、仕事に夢と生きがいを求めている。個人的にも共感できる人物像である。

さて、ロケット開発を国から一手に任されている帝国重工研究所にとって、佃製作所のバルブシステムは何としても手に入れたい技術である。なぜならそれはロケットエンジンにおけるキーデバイス（カギを握る重要な部分）だからだ。そこで、あの手この手を使って佃の特許を手に入れようとするのだが、そこで両者の丁々発止のドラマが展開される。

弱者が、大きな組織に果敢に挑戦し、最後に鼻を明かすという筋立ては、他の池井戸作品にも共通している。そういう意味では、彼の作品の主要な要素が、この作品にすべて詰まっているといえるだろう。

作者は、生き馬の目を抜く現代の資本主義社会において、中小企業が、資金面やその他において、いかに困難な立場に置かれているかを描いている。その上で、企業を巡る二つの価値観をわかりやすい形で対置している。それは、採算と効率を重視する大企業の論理と、手作業と品質にこだわる中小企業の論理である。そして、中小企業にこそ、古き良き健全な勤労観のもとでプライドを持って働く人々がいることを教えてくれるのだ。

私は、正直なところ、国内の産業事情について不案内であるが、おそらくこのような名もない企業の実直な職人気質が日本の産業を支えてきたのだろうと思う。ここのところ、やや自信を失いかけた私たち日本人に、かつての雑草魂を思い出させてくれる痛快さが魅力である。

ちなみに本作品は三上博主演でｗｏｗｏｗでドラマ化され、ＤＶＤも発売されているという。ぜひ見てみたいと思う。

（彰）

雑誌の紹介

『J-ONE』

定価　六〇〇円

「僧伽」八十二号の「自分色」を書いていただいた、すぎたカズトさんが個人で発行している雑誌です。「福島の声を聴き、語り合い、その声を届け、寄り添い、三・一一以降の生き方を模索する新雑誌」というコンセプトで、原発事故で今なお多くの方々が様々な問題に直面している福島の今を届けてくれています。

事故のあった二〇一一年の九月に創刊号が発行され、今年の五月には八号を迎えました。今回は、すぎたさんが三月に千葉の房総半島から青森の下北半島までを車で取材してきたルポが巻頭から七ページにわたって掲載されています。四十枚を超える写真からはまだ先の見えない復興の様子が覗われます。

三号と三・一一号で紹介されている相馬高校放送局の生徒達が、卒業を迎えるにあたって今までの経験や明日への思いを語っている座談会の様子もあります。西田幾多郎記念館でも上演された彼女たちの演劇は全国で話題となりましたが、事故から三年が経ち卒業を迎えた彼女たちの生の声がそこにあります。

他に、いわき市で甲状腺検査をしている北海道がんセンターの医師や、飯舘村の若者、地元の漁師の方の声など、TVや新聞に出ている専門家ではない、現地の人たちが登場しています。

それとおまけですが、私のインタビューも四ページにわたり掲載されています。他にも盛り沢山の内容です。

すぎたさんが個人で発行している雑誌なので一般の書店では取り扱っていません。直接すぎたさんのホームページから申し込まれるか、徳法寺でお求め下さい。バックナンバーもあります。六〇〇円の中から二〇〇円は福島の子どもたちの保養を実施している団体等に寄付させてもらいます。是非一度手にとってみてください。

（淨）

各寺のご案内

◆常　徳　寺

金沢市寺町
五丁目一番二九号
TEL二四一―二六四九

◎秋彼岸法要
九月二十三日（祝）
午後二時より

◎報恩講
十月十日（金）
お逮夜　午前十時
お日中　午後一時半
法話　佐々木五六師

◆徳　法　寺

金沢市野町
二丁目三二―四
TEL二四一―五二一九

◎お講（石坂同信会主催）
毎月二十一日
午後七時半より
講師　八月　表　美智子
九月　杉谷　淨
十月　幸村　明
十一月　杉谷　淨

◎秋彼岸
木村洋介写真展
九月二十日（土）から
二十六日（金）まで

◎秋彼岸中日及び
永代経法要
九月二十三日（祝）
午後一時より
講師　藤原　千佳子氏
午後三時より
Pray for Japan 上映会

編集委員
西山　彰（常徳寺）
杉谷　淨（徳法寺）